

# ■耐震強度検討書(アンカーボルト)

1.機種 = **スリムER/冷房専用シリーズ 室外ユニット**  
 2.形名 = **PUZ-ERMP112LA2, PUZ-ERMP140LA2  
 PU-CRMP112LA2, PU-CRMP140LA2**

## 3.機器諸元(下記参照)

(1) 機器質量(運転質量)  $w = 90$  kg  
 (2) アンカーボルト  
 ① 総本数  $N = 4$  本  
 ② サイズ・形状  $= M 10$  形  
 ③ 1本当たりの軸断面積(呼径による断面積)  $A = 78$  mm<sup>2</sup> =  $78 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>  
 ④ 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数  $N_t = 2$  本  
 (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 600$  mm =  $0.600$  m  
 (4) 検討する方向からみたボルトスパン  $L = 370$  mm =  $0.370$  m  
 (5) 検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 160$  mm ( $L_g \leq L/2$ ) =  $0.160$  m

## 4.検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度 設計用標準震度  $K_s = 1.0$   $K_h = Z \cdot K_s = 1.0$   
 地域係数  $Z = 1.0$   
 (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 = 0.5$   
 (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot w \cdot 9.8 = 882.0$  N  
 (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot w \cdot 9.8 = 441.0$  N  
 (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (w \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 619.8$  N  
 (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = F_h / N = 220.5$  N  
 (7) アンカーボルトに生ずる応力度  
 ① 引張応力度  $\sigma = R_b / A = 7.9$  MPa <  $f_t = 176.0$  MPa (ボルト(SS400)の許容引張応力)  
 ② せん断応力度  $\tau = Q / A = 2.8$  MPa <  $f_s = 101$  MPa (ボルト(SS400)の許容せん断応力)  
 ③ 引張とせん断を同時に受ける場合  $f_{ts}' = 1.4f_t - 1.6\tau = 241.9$  MPa  
 ただし、 $f_{ts}' \leq f_t$  のとき  $f_{ts} = f_{ts}'$ 、 $f_{ts}' > f_t$  のとき  $f_{ts} = f_t$  であるので  $f_{ts} = 176.0$  MPa  
 $\sigma = 7.9$  MPa <  $f_{ts} = 176.0$  MPa  
 (8) アンカーボルトの施工法  
 ① アンカーボルトの施工法 = **あと施工接着系アンカー**  
 ② コンクリートの厚さ =  $120$  mm =  $0.120$  m  
 ③ ボルトの埋込長さ =  $80$  mm =  $0.080$  m  
 ④ 許容引抜荷重  $T_a = 7600$  N >  $R_b = 619.8$  N

以上の検討結果によりアンカーボルトは十分なる強度を有する。

\*ボルトの許容応力度およびアンカーボルトの引張許容引抜荷重は、『建築設備耐震設計・施工指針2014年度版』による。

